



世界地図を前に自身の生まれについて話す金子さん

なく、もうちょっとみんなが明るい気持ちで毎日をごせる社会をつくるための一つのヒントは、人生設計なのかなと思っています。もちろん子どもたちに人生設計しなさいなんて話しても仕方ないことですが、でも僕の立場から、プロの音楽家として伝えられるのは何かと考えた時、自分の過去の話をするのだと思うんですね。僕には、小さな頃からピアニストになりたいという夢があって、それがいつの間にか目標が変わって、そこだけはぶれずにずっと31年間生きてきました。そうすると、大変なこともいろいろあったり、壁にぶつかることだらけなんですけど、でも、諦めずにそこに向かってチャレンジしていくと、夢って意外と叶うものなんですよって話をしています。子どもたちにもぜひいろいろな夢をもって、そこに向かって諦めずに頑張っていってほしいと思います。一回しかない人生をきちんと考えて生きていけば、きっと楽しいものになるよと、今はとにかく伝えてみて、9歳、10

歳ですぐ決まるかもしれませんが、ぼんやりとその時は聞いているだけかもしれません。でも、それが5年後、10年後、何か自分が迷った時に、そういえば4年生の時にピアニストが来て、そんなこと言ってたなと思いついてくれればいいかなって思っています。そういうお手伝いができる機会につながたらいいな。これは僕自身の切実な願いでもあります。

金子さんは、自身が日本人なのか、外国人なのか、子どもたちにクイズで問いかけています。このクイズの背景にある思いについて聞きました。

Q 子どもの頃、どのようなことに悩み、どのように乗り越えてきましたか？

二つの国の間に生まれた子どもは、みんなどこかで意識することなのかもしれませんが、どちらの国に行っても完璧にその人間になりきれない。小さな頃はそれが何なのかよく分からな

いんですけど、どうしても違和感を覚えてしまう。僕の場合、ハンガリー人と日本人って見た目からして全然違うので、ハンガリーに行くで一瞬で東洋人と見抜かれます。また、例えば日本で母と一緒に歩くと、母は金髪、色白、青い目みたいな感じの人ですから目立つんですね。僕は、平成元年に生まれ、群馬県の高崎市で育ちましたが、当時はまだ僕たちみたいな親子は珍しかったというのがあります。

なんとなく自分は差別を受けているんだなと子どもながらに感じる瞬間って、実はどちらの国に行ってもありました。学校に行くとみんなと違う、どこに行ってもみんなと何かが違う、この感覚はなかなか不思議なもので、自分はこれをどう消化してどう解釈すればいいのかと、随分悩んだ時期もありました。差別を受けてるなっていう感覚は、10代半ばぐらいまで続いてましたね。今でも受けることはありますが、14歳、15歳ぐらいからは、自分が大人になってきたからだとも思いますが、ちょっと違う視点で考えられるようになりました。みんなと違って構わないんだ。僕はこうして生まれてきたんだから、みんなにできないことを探してみよう、とちょっと開き直れるようになったおかげで、今はもう何を言われても全く気にならないようになりました。

でも、子どもながらにフラストレーションがあったからこそ、もしかすると、音楽という一つのことを打ち込んで、ちょっとしたストレスを発散する喜びに早い段階で目覚めていたのかも。フラストレーションがかかって良いモチベーションにつながっていたのかもしれないですね。今思うと、音楽があったおかげで悩みを乗り越えられたのになって思います。



ドナウ川越しに望む首都ブダペスト
写真提供：ジャパン・アーツ

ハンガリーってどんな国？

国土の中央にドナウ川が流れ、首都ブダペストはドナウ川の河畔に位置します。国土は日本の約4分の1。緯度は北海道と同じくらいで、四季が訪れます。また、日本と同じく温泉大国で、国内に1,000以上の温泉があります。首都ブダペストは「ドナウの真珠」といわれるほど美しい街並みで、王宮のブダ城やドナウ川に架かる鎖橋などを含めて世界遺産に登録されています。また、オーストリアのウィーン、チェコのプラハと並び音楽の都として知られています。

ハンガリーの音楽家として知られるのはフランツ・リスト(1811-86)。1875年に設立された王立音楽院も、後にリストの名を冠し、リスト音楽院大学として現在に至ります。金子さんも同校で学び、デビューアルバムは『プレイズ・リスト』でした。

